卒業論文

「仲良し母子」イデオロギーの誕生

――母子の親密さを描くテレビドラマの比較から――

2016 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2020 年 1 月提出

要約

本論文では、母親と子どもの親密な関係に注目し、現代における仲良しな母子関係がどのようにして誕生したのか、その背景を考察した。また、1990 年代から現在に至るまでのテレビドラマを題材に、母子関係の描かれかたがどのように変化しているのかについて分析し、その時々の母子の親密さの実態を明らかにした。

はじめに、日本における「家族」という概念を把握するため、さまざまな「近代家族」研究から、日本の家族像が構築された歴史についてまとめた。国家戦略としての千田有紀の「近代家族」研究、そして「近代家族」の実態についての落合恵美子の研究をもとに、「近代家族」の特徴やイデオロギーをとりあげ、現在の「近代家族」のゆらぎまでの流れを整理した。

次に、本論文のテーマとなる「仲良し母子」について概観した。「仲良し母子」とは、心理的に密着度の高いとされる現代的な母子関係の総称とする。さまざまな「仲良し母子」の登場した年代とその提唱者、そして日本で「仲良し母子」が出現した背景と現在のより許容性の高まった社会的評価をまとめた。

次に、「仲良し母子」の中でも本論文で頻出となる「マザコン」に焦点を当て、主にその変容に関して先行研究から考察を行った。従来に比べ「仲良し母子」が肯定的にとらえられている現在においても、ステレオタイプ的「マザコン」はいまだに排除的まなざしを向けられている。その歴史的要因と、脱却アプローチとして原田曜平が提唱した「ママっ子男子」に関して、母親と子ども双方の特徴および背景を整理した。

次に、若者の自立と親子関係についてまとめた。若者期における移行プロセスの中の特に結婚と離家に注目し、このようなライフイベントが自立の終着点とされる従来の自立観が現在においても通用するかを考察した。さらに、親と友人（恋人）の両者を同時に視野に入れた自立論について、「切り替えモデル」と「相補的関係モデル」という異なる 2 つのモデルを紹介した。

次に、日本のテレビドラマと社会とのかかわりについて先行研究を整理した。当時の社会状況をふまえ、テレビドラマに対して理想を求める非リアリティ志向から、現実を見据える話を好むリアリティ志向に転換した視聴態度の変遷を論じた。そしてテレビドラマの先行研究から、その社会的役割として、「現実的役割」、「マニュアル的役割」、「刺激的役割」の 3 点をとりあげた。

分析においては、まず 1990 年代から現在に至るまでの、親密な母親と子どもがメインとなる 5 つのテレビドラマのあらすじを放送された年代順に紹介した。そのうえで、作中において描かれる母子の様相とその関係性の変容を、人物設定、愛情表現、自立表現の 3 つのカテゴリーから考察した。

はじめに、人物設定については、親密な母親と息子が登場する作品における父親の不在が特徴として挙げられた。また現在までの変化として、「マザコン」の代替語の登場や、「二枚目俳優」と呼ばれるキャストの起用などがみられた。

次に、愛情表現については、母親から子どもへの愛情の比重が子どもから母親に変化しつつあることが明らかになった。その理由として、作中で描かれる母親がより魅力的になっていること、保護対象としての性質が強まっていることなどが考えられる。そして、近年の母子間におけるソーシャルメディア上のやりとりの活発化により、「言葉で示す愛情」が特に重要視される傾向にあることが判明した。

最後に、自立表現については、すべての作品において親密な母子に向けての注意喚起の役割を果たす「規範的他者」が登場していた。さらに、2010 年代以降は、「規範的他者」における忠告者・アドバイザーとしての役割とは異なり、親密な母子関係に対し羨望を抱き、時にその仲の良さを肯定していく役割の「羨望的他者」も出現している。また、子どもの自立の変容として、田中の提唱する「切り替えモデル」から「相補的関係モデル」への移行が作中でみられた。

「仲良し母子」の先行研究やテレビドラマ分析により、「仲良し母子」が誕生した背景やその時々における母子の親密さの実態が明らかになり、加えて新たな仮説も誕生した。本研究の分析結果は、日本社会に「仲良し母子」に関する新たな規範性が構築されている可能性を示唆しているものと考えられる。その規範を「『仲良し母子』イデオロギー」と称した。この「仲良し母子」イデオロギーは、「仲良し母子」としてあるべき理想像を体現したものであり、その規範の対象は母子にとどまらず、社会に対しても影響を及ぼしているとの仮説を述べ、本論文の結びとする。

目次

1　本研究の目的.....1
2　先行研究.....3
2.1　近代家族.....3
2.1.1　近代家族の成立.....3
2.1.2　近代家族の特徴.....3
2.1.3　近代家族の規範.....5
2.1.4　近代家族のゆらぎ.....8
2.2　「仲良し母子」.....14
2.2.1　「仲良し母子」とは.....14
2.2.2　「仲良し母子」年表.....15
2.2.3　「仲良し母子」の背景.....17
2.2.4　仲良し母子の社会的評価.....19
2.3　「マザコン」.....21
2.3.1　「マザコン」という用語.....21
2.3.2　「マザコン」の排除的まなざし.....23
2.3.3　「マザコン」から「ママっ子男子」へ.....23
2.4　若者の自立と親子関係.....26
2.4.1　若者の自立の相貌.....26
2.4.2　結婚と自立.....26
2.4.3　離家と自立.....28
2.4.4　若者の自立と依存に関する議論.....29
2.4.5　親子関係と「重要な他者」.....30
2.5　日本のテレビドラマ.....31
2.5.1　テレビドラマのリアリティ.....31
2.5.2　テレビドラマと社会状況の密接な関係.....31
3　「仲良し母子」の変容.....35
3.1　分析に用いるテレビドラマの紹介.....35
3.1.1　『ずっとあなたが好きだった』（1992 年，TBS 系）.....35

3.1.2　『マザー＆ラヴァー』（2004 年，フジテレビ系）.....35
3.1.3　『理想の息子』（2012 年，日本テレビ系）.....36
3.1.4　『お母さん、娘を辞めていいですか？』（2017 年，NHK 総合）.....37
3.1.5　『過保護のカホコ』（2017 年，日本テレビ系）.....38
3.2　人物設定からみる母子関係.....38
3.2.1　人物設定.....39
3.2.2　子どもの性別と制作側の意図.....41
3.2.3　父親の不在.....41
3.2.4　「マザコン」の排除的まなざしと代替語.....43
3.2.5　起用俳優の「二枚目」化.....44
3.2.6　その他設定.....45
3.3　愛情表現からみる母子関係.....45
3.3.1　愛情の比重の変容.....45
3.3.2　魅力的になる母親.....46
3.3.3　保護対象になる母親.....47
3.3.4　愛情表現の分類と変容.....48
3.4　自立表現からみる母子関係.....50
3.4.1　「規範的他者」の役割.....50
3.4.2　「羨望的他者」の役割.....52
3.4.3　「切り替えモデル」から「相補的関係モデル」への移行.....53
4　まとめ.....56
4.1　「仲良し母子」の整理.....56
4.2　テレビドラマ分析の整理.....57
4.3　「仲良し母子」イデオロギーの誕生.....58
4.4　研究の限界.....59
参考文献.....60
謝辞.....62